

1 目的

奄美大島の新規就農者は I ターンの割合が高く、瀬戸内町営農研修センターでは、就農希望者に対しパッションフルーツの研修を行っている。就農後は、タンカンやパッションなどそれぞれの経営品目の講習会に出席し、技術習得を図っているが、経営者としての育成も重要であるため、地域の農家とも協力したサポート体制の整備が必要がある。また近年、安心安全に対する消費者の要望から、瀬戸内町では「かごしまの農林水産物認証制度」に取り組み、新規就農者を含むパッションフルーツ栽培者全員の認証を目指しており、町担当者の指導力向上が必要である。

パッションフルーツ以外にも、温暖な気候を活用したアボカド等の新しい熱帯果樹の試作が始まっており、新しい品目の産地育成を早急に図るため、奄美大島における栽培特性や収益性など、県内外の情報収集が必要である。

2 実施状況

(1) 『かごしまの農林水産物認証制度』の導入推進

「瀬戸内町パッションフルーツ K-GAP 推進部会(6名)」を設立し、安心安全な農産物生産のため、会員の増加を図っている。その推進にあたり、行政と生産者で宮崎大学の J-GAP 取り組みについて視察研修した。視察内容を生産部会で報告し、平成 27 年産パッションフルーツでは 15 名に増えて K-GAP 認証に取り組むこととなった。

また新規就農者及び農業研修生に対し、「パッションフルーツ栽培の手引き(K-GAP 推進)」を作成し、瀬戸内町、奄美市、喜界町で新規栽培者向けの栽培講習会を開催し、早期技術習得を図った。

(2) 新規熱帯果樹の導入検討

新規熱帯果樹としてアボカドに注目し、島内での研修会や愛媛県における取り組みを視察した。それらの情報をもとに、アボカドの苗木を数品種導入し、瀬戸内町営農研修センターハウスに展示ほ場として植え付けた。また奄美大島におけるアボカドの生育状況の確認や熱帯果樹類の接ぎ木講習会を実施した。

3 今後の課題、取り組み

(1) 『かごしまの農林水産物認証制度』の導入推進

新規就農者の早期技術習得と、町内の施設栽培パッションフルーツ農家全員が K-GAP に取り組む方向で研修会を重ね、関係機関と一体となり支援していく。

(2) 新規熱帯果樹の導入検討

新しい推進品目としてアボカドを位置づけ、奄美大島における栽培技術の確立を図るため、瀬戸内町営農研修センターや生産者のほ場に植栽しているアボカドの生育調査や安定生産技術について、調査研究をすすめていく。



宮崎大学 JGAP 視察



K-GAP 推進研修会風景



愛媛県熱帯果樹視察



熱帯果樹接ぎ木講習会